

青年期の充実感と学生生活との関係

大 野 久

Fulfillment Sentiment of Undergraduate Students

by

Hisashi Ohno

問 題

E. H. Erikson (1959) は、自我の心理社会的発達を漸成発達理論にまとめた。この理論の中でEriksonは、人生を乳児期から老熟期までの8段階に分け、それぞれの中心となる心理社会的な主題を示している。この中で示された青年期の主題は「アイデンティティ統合対アイデンティティ拡散」であり、Eriksonは、この主題が人生の中で最も重要な課題であると述べている。

このアイデンティティの感覚とは、「内的な不変性と連続性を維持する各個人の能力（心理学的意味での個人の自我）が他者に対する自己の意味の不変性と連続性とに合致する経験から生まれた自信」であると述べられている。つまり、これは、個性をもった主体的な自分が、社会の中で認められた自分の地位、役割、職業、身分などの「～としての自分」という感覚に合致している安定感、安心感、自信を意味している。そして、こうした大人としての社会的自己を選択し、主体的自己と違和感なく一体化することが青年期の課題であり、かつ、人生における心理学的な最重要課題であるといえる。

次に、西平直喜(1979)は、このアイデンティティに関する理論を基礎に、青年期の充実感・生きがい感とその青年のアイデンティティの実感であることを理論化した。つまり、青年がアイデンティティ統合の方向にむかって生きている場合、その生活気分は充実感・生きがい感によって彩られ、アイデンティティが統合できず、または、否定的アイデンティティに固執するような場合、その生活気分は「しらけ」たものになると述べられている。

大野久(1984a)は、西平の理論から青年の充実感を測定する充実感尺度を作成した。この尺度は、次の4下位尺度から構成されている。まず、生活気分としての充実感を測定する「充実感気分－退屈・空虚感尺度」、アイデンティティの感覚を測定する「自立・自信－甘え・自信のなさ尺度」、親密性の感覚を測定する「連帯－孤立尺度」、信頼感の感覚を測定する「信頼・（時間的展望）－不信・（時間的展望の拡散）尺度」の4尺度である。

そして、この尺度に統計的な妥当性のあることを確認した後、分析の結果、現代青年の生活気分として感じられる充実感や空虚感、つまり、「毎日の生活にはりがある」、「毎日の生活に退屈している」などの感情は、アイデンティティの感覚、親密性の感覚、信頼感の感覚など自我の問題にまつわる感情と、有意な正の相関関係のあることを見いだした。この結果は、西平の理論に妥当性のあることを示している。

さらに、大野(1984b)はこの充実感とアイデンティティの関係を確認するために、充実感尺

度と、A. D. Rosenthal (1981) のエリクソン心理社会的段階目録との相関を吟味し、両者に有意な正の相関関係を見いだしている。

また、大野 (1987) は、同じ目的で充実感尺度と同一性地位判別尺度 (加藤厚1983) との関係を吟味し、アイデンティティ統合に近い地位にある青年ほど、充実気分の高いことを見いだしている。

このように、ここまでの研究で、青年期における充実感とアイデンティティとの相関関係は、確認できたように考えられる。

ここまで感情レベル、自我の感覚というレベルでの資料収集を行ってきたが、次の段階として、本研究では、全生活空間の側面に焦点をあて、主に行動レベルを中心に、どういう生活をおくっている青年が、充実感を感じているのか、また、充実感を手がかりに、現代青年、特に、学生がどのような生活の領域を、アイデンティティの感覚を感じる上での基礎として位置づけているのかを吟味することを目的とする。

方 法

①質問紙 現代の学生の具体的な生活行動や意識を把握するための枠組みとして、「大学生生活・講義」、「クラブ・サークル・ボランティア」、「友人関係」、「恋愛」、「アルバイト」、「趣味」、「家族」、「その他・生活全般」の領域と加えて「将来」に関する領域を設定した。また、それぞれの領域に関して5～10項目の質問項目を作成した (付表1参照)。評定は「非常にあてはまる」(5点) から「全くあてはまらない」(1点) までの5段階評定である。

また、充実感の測定に関しては、大野 (1984a) の充実感尺度を使用した。この尺度は、生活感情の側面である「充実感気分—退屈・空虚感」アイデンティティの感覚を測定する「自立・自信—甘え・自信のなさ」、親密さに関する「連帯—孤立」、信頼感に関する「信頼・ (時間的展望) —不信・ (時間的展望の拡散)」の4尺度によって構成され、各尺度にはそれぞれ5項目の質問項目がある (付表2参照)。評定は上述した質問紙と同様の5段階評定である。

②調査の実施 被調査者は、新潟市内のN国立大学教養部の1、2年生男子120名、女子120名の計240名である、調査は1989年10月上旬に講義時間内で集団実施された。

結 果

①「大学生生活・講義」と充実感尺度

「大学生生活・講義」の各項目と充実感尺度との相関係数を表1に示した。この領域で特に充実感尺度との相関が高い項目は1)「今の学校に満足している」である。この項目は充実感尺度の4尺度のそれぞれに有意な正の相関をもつ。次に項目3)「大学での講義、演習などは自分のためになると思う」と項目5)「大学の講義、演習などには積極的に参加している」は、「充実感気分」と「信頼感」に有意な正の相関をもつ。また、項目4)「大学を休むことが多い」は「連帯」と有意な負の相関をもつ。

このことから、自分の所属する大学に満足しているほど、生活気分としての充実感を強く感じ、それを構成する自我の感覚がいずれも肯定的であることがわかる。また、講義・演習に意味を感じ、積極的に参加している学生の充実感気分と信頼感が高いが、大学に対する満足ほどの強い関係はない。また、講義・演習への出席率は充実感気分や信頼感よりも連帯感に関連が高い。

②「クラブ・サークル・ボランティア」と充実感尺度

項目6)「私はクラブやサークル(ボランティア活動も含む、以下同じ)に参加している」と充実感尺度との相関係数を表1に示した。この項目は「充実感気分」と「信頼」に有意な正の相関をもち、一般的にクラブ、サークルに参加しているほど充実感気分の高いことがわかる。

次に、クラブ・サークルに参加している学生と参加していない学生とに場合分けして分析する。

まず、クラブ・サークルに参加している学生に関して、各項目を肯定した群と否定した群の充実感尺度の平均値を比較してみると(表2)、項目7)「私は目的を持って活動している」、10)「私は自分のクラブ、サークル活動が好きだ」を肯定した群の「充実感気分」の得点が、否定した群の得点よりも有意に高い。また、9)「クラブ、サークル活動に熱中できない」、11)「クラブ、サークル活動にやりがいを感じない」を否定した群の「充実感気分」の得点が肯定した群の得点よりも有意に高い。

また、項目12)「クラブ、サークル活動の中で自分自身が生かされている」を肯定した群の充実感尺度の4尺度全ての得点が、否定した群の得点よりも有意に高い。

したがって、クラブ、サークルに参加している場合、目的を持ち積極的に参加している方が充実感気分は高い。しかし、自立・自信、連帯、信頼には差がない。また、項目12)「クラブ、サークル活動の中で自分自身が生かされている」と感じている場合、項目1)と同様に充実感気分、自立・自信、連帯、信頼のいずれも高い。

しかし、クラブ・サークルに参加しながら、項目7)「私は目的を持って活動している」、10)「私は自分のクラブ、サークル活動が好きだ」、12)「クラブ、サークル活動の中で自分自身が生かされている」を否定した群、および、項目9)「クラブ、サークル活動に熱中できない」、11)「クラブ、サークル活動にやりがいを感じない」を肯定した群とクラブ・サークルに参加していない学生の充実感尺度の得点を比較してみると(表3)、いずれの項目の場合でも、充実感尺度の4尺度全てに有意差はない。

したがって、一般的にクラブ・サークルに参加している学生の方が充実感気分の高いことは、すでに示されたとうりであるが、クラブ・サークルに参加していても、その参加の姿勢が、主体的、積極的でなく、活動に意味が見いだせない場合、充実感、クラブ・サークルに参加していない学生と同程度であるといえる。

次に、クラブ・サークルに参加していない学生について、分析してみると(表4)、項目13)「クラブ、サークル、ボランティアのほかに熱中できるものがある」を肯定した群の充実感尺度の4尺度全ての得点が否定した群の得点よりも有意に高い。

ちなみに、クラブ・サークルに参加せずにこの項目を肯定した群と、なんらかの形でクラブ・サークルに参加している学生の得点とを比較すると(表4)、「充実感気分」、「連帯」、「信頼」に差はなく、「自立・自信」では、この項目を肯定した群の得点が有意に高い。

したがって、クラブ・サークルに関しては、クラブ・サークルに参加しているか否かという所属の問題よりも、自分が熱中できる、没頭できるものがあるか否かが充実感に関しては重要であると考えられる。それがクラブ・サークルという場に生かされるかどうかは、2次的な問題なのであろう。

③「友人関係」と充実感

「友人関係」の各項目と充実感尺度との相関係数は表5に示した。この結果、項目19)「私は友人が多いほうだ」と、23)「私の交友関係は年齢層が広いほうだ」の2項目は、充実感尺度の4尺度すべてに有意な正の相関が見いだされた。また、項目21)「悩みが打ち明けられる親友がいる」は、充実感気分、連帯、信頼の各尺度に、22)「異性の友人がいる」は、自立・自信、連帯、信頼の各尺度に有意な正の相関があった。また、項目20)「私は人と浅く広くつき合うほう

だ」は、充実感尺度の各下位尺度との間には有意な相関はなかった。

したがって、友人関係と充実感との関係では、一般的に友人が多いことは充実感に結び付いているが、浅く広いつき合い方は充実感と関連しないことがわかる。

また、この中から、比較的相关係数の高いものをひろってみると、項目19)は充実感気分や連帯と、項目21)は連帯や信頼と、項目22)は連帯と、項目23)は自立・自信とそれぞれ相関の高いことがわかる。

このことを簡単にまとめると、友人の多さは充実感気分、親友の存在は連帯と信頼に、異性の友人の存在は連帯に、交友関係の広さは、自信により関係の深いことが考えられる。

④「恋愛」と充実感

項目31)「私には好きな人(片思いも含む)がいる」と充実感尺度との相関は表5に示したとおり、有意な相関はなかった。

次に、この項目31)を肯定した(5または4と反応した)153名に関して、項目32)～35)の質問を行った。この各項目に肯定的な反応をした群と、否定的な反応をした群の充実感尺度の各下位尺度の平均値を比較した結果を表6に示した。

この結果、項目32)「私の好きな人によく会う機会がある」では、この項目に肯定的反応をした群の充実感尺度の4尺度すべての得点が、否定的反応をした群の得点よりも有意に高かった。また、項目34)「現在複数の異性とつきあっている」と35)「交際している特定の異性がいる」では、肯定的反応をした群の自立・自信の得点が、否定的反応をした群の得点よりも有意に高かった。

このことは、一般的に学生生活において、学生は「恋人がいれば充実する」と予想する傾向があるが、今回の実際のデータは、こうした傾向はないことを示している。むしろ、複数の異性と交際すること、特定の恋人の存在は、自立・自信に関係が強い。

次に、項目35)を肯定した(5または4と反応した)52名に関して、項目36)～39)の質問を行い、各項目に肯定的反応をした群と否定的反応をした群の充実感尺度の得点を比較したが、いずれも有意な差は見いだされなかった。

⑤「アルバイト」と充実感

項目40)「私はよくアルバイトをしている」と充実感尺度との相関係数は表5に示したとおり、有意な差は見いだされなかった。

次に、項目40)を肯定した99名に項目41)～43)の質問を行った。そして、各項目に肯定的反応をした群と、否定的反応をした群の充実感尺度の平均値を比較した(表7)。

その結果、まず、項目41)「アルバイトは楽しい」では、肯定群が否定群よりも充実感気分と信頼において有意に得点が高かった。

次に、アルバイトの目的(項目42))において、各項目を肯定した群と否定した群の充実感尺度の得点を比較した。

その結果、アルバイトの目的として、「趣味」を肯定した群の連帯の得点が否定した群の得点よりも有意に高かった。また、「娯楽」を肯定した群の充実感気分の得点が否定した群の得点よりも有意に低かった。

また、アルバイトをしている日数に関する質問(項目43))に、週1日または2日と反応した群と週4日または5日以上と反応した群の充実感尺度の得点を比較すると、後者の信頼の得点が前者よりも有意に低かった。

次に、項目40)を否定した109名に項目44)、45)の質問を行った。そして、各項目に肯定的反応をした群と、否定的反応をした群の充実感尺度の平均値を比較した(表8)。

まず、項目44)「アルバイトをしたいと思う」では、肯定群と否定群との間の充実感尺度の得

点に有意差は見いだされなかった。

次に、アルバイトをしない理由に関する質問（項目45）では、その理由として「自分にあったアルバイトが見つからない」を肯定した群の充実感気分と信頼の得点が、否定した群の得点よりも有意に低かった。また、「アルバイト以外にしたいことがある」を肯定した群の連帯の得点が、否定した群の得点よりも有意に高かった。

⑥「趣味」と充実感

次に、「趣味」の各項目と充実感尺度との相関係数を表9に示した。

この結果、項目46)「私には趣味がない」では充実感尺度の4尺度すべてに、有意な負の相関が、項目47)「履歴書の趣味の欄に自信をもって書けるものがある」では充実感尺度の4尺度すべてに有意な正の相関が見いだされた。

また、項目48)「趣味に打ち込んでいるときが一番幸せだ」と49)「趣味は時間を作ってもやりたいものだ」では、充実感気分、自立・自信と信頼に有意な正の相関が見いだされた。

これらのことから、青年期において趣味を持つことは、充実感気分とそれを構成する自立・自信、信頼の関連の強いことがわかる。

⑦「家族」と充実感

「家族」の各項目と充実感尺度との相関係数を表10に示した。

この結果、項目24)「私は母親が好きだ」では、充実感気分と信頼に有意な正の相関が見られた。また、項目25)「私の親は口うるさい」では、連帯との間に有意な負の相関が見られた。また、項目26)「私の家では家庭内での会話が多い」では、充実感気分、連帯と信頼との間に有意な正の相関が見られた。さらに、項目27)「私は父親が嫌いだ」では、信頼との間に有意な負の相関が、また、項目28)「私の家は比較的裕福だ」では、連帯との間に有意な正の相関が見られた。最後に、項目29)「私は親を尊敬している」では、充実感気分と信頼との間に有意な正の相関が見いだされた。

これらのことから、両親に好意的で、尊敬し、会話の多い青年が充実感、信頼感が高い傾向のあることがわかる。

⑧その他、生活全般に関わることと充実感

「その他・生活全般」の各項目と充実感尺度との相関係数を表11に示した。

この中で、項目50)「特定の宗教を信仰している」と充実感尺度との間には有意な相関はなかった。次に、項目51)「毎日の生活の中で寂しいと感じたことがある」は、充実感尺度の4尺度すべてと有意な負の相関があった。

また、項目52)「私の健康状態はとても良い」は、充実感気分、連帯と信頼との間に有意な正の相関があった。

さらに、項目53)「自分の自由になる時間がある」は、連帯と信頼との間に有意な正の相関が見いだされた。

⑨「将来」と充実感

最後に「将来」に関する各項目と充実感尺度との相関係数を表12に示した。

この中で、項目15)「自分の将来に夢や希望を持ってない」は、充実感尺度の4尺度すべてと有意な負の相関が、また、項目16)「夢や希望に向かって現在努力している」と、18)「具体的にこれからの就職先や進路を考えている」は、充実感尺度の4尺度すべてと有意な正の相関が見いだされた。

さらに、項目17)「将来の夢や希望について挫折感を感じたことがある」では、自立・自信と連帯との間に有意な負の相関が見いだされた。

この結果、将来に関する希望や時間的展望を持つこと、また、それが実際の努力目標になるほど具体化されていることは、青年期の充実感やアイデンティティの問題に密接に関連していることがわかる。

討 論

①本研究の結果のまとめ

本研究の結果、得られた知見の主なものをまとめると以下のようになる。

- 1) 学生は、学問をすることよりも大学生であることに充実感を感じている。
- 2) クラブ・サークル・ボランティアは所属の問題よりも、自分が生かせる場であるか否か重要である。
- 3) 友人の多いことは充実感に関係するが、親友、異性の友人の存在は、むしろ、連帯に関係が高い。
- 4) 恋人の存在は、直接、充実感には関連がなく、むしろ、自信に関係している。
- 5) 趣味を持つことは、充実感を感じさせる。
- 6) 将来に展望をもっている学生は充実感が高い。

②学生生活におけるアイデンティティと充実感の関係

青年期における充実感がアイデンティティ統合の過程に感じられる実感であることは、すでに問題で述べたとうりである。したがって、青年の全生活空間の中のどのような領域で充実感が感じられるのかを明らかにすることは、その青年がどういうアイデンティティをもっているのかを知る手がかりとなる。

この観点から、まず時間軸を含まない学生の現実生活に焦点を当てて考察しよう。

まず初めに、一般的に考えて、学生のアイデンティティの基礎を形成していると考えられる社会的身分を証明するはずの「学生であること」に関連している「大学生活・講義」についてみよう。本研究の結果、学生は、自分が所属している大学の学生であることに強く充実感を感じているが、これに対して講義が自分のためになること、積極的に参加していることは充実感とは低い相関関係であり、強い傾向ではないことが明らかになった。

このことから、学生は講義への参加や学問をすることによりも、大学生であること、この大学の学生であることに充実感を感じている。さらには、この大学の受験に合格したことに充実感を感じているのではないかと考えることができる。これは、学生の充実感の基礎となるアイデンティティが、単に所属、身分証明の問題から規定されていることを示してあり、学生の本質である「学問をするもの」という機能的な定義にははずれることを意味している。すなわち、現代の学生は、「学問をする学生」としてアイデンティティではなく、ただ単に「この大学の学生」であることにアイデンティティをもつ傾向が高いといえる。

このことは、勉強は大学「合格」がその最終目的ではなく、大学とは学問を修める場であるという本質的なことを、現代の受験体制が、学生に見失わせているという、受験体制の弊害の一端を示すものである。

次に、「クラブ・サークル・ボランティア」に関して考察すると、この領域では、所属の問題よりも、その活動が自己を生かせるものであるか否かが充実感と相関していた。

このことは、社会の中での自己の存在の意味、果たすべき役割などから、自己を定義している、または、存在証明を感じているということを示している。これは、「大学生活・講義」への反応と比較すると、より健全で本質的な自己定義といえる。このクラブ・サークルなどの場で、自己

存在を確認することは、社会の中での一人前の社会人としての自己を確立する前の役割実験として機能していると考えられる。

次に、「アルバイト」と充実感の関係をみると、有意な相関はなかった。このことは、アルバイトは本質的に、自己定義とは直接関係ないことを示している。

いかに、現代が、学生によるアルバイト全盛の風潮にあるといっても、さすがに学生もアルバイトにはアイデンティティをもたず、収入のための手段として、割り切った考え方をしていることを読み取ることができる。

学生の現実生活に関するもので最後に、趣味についてみると、一般的に趣味を持つことは、充実感気分、自立・自信、連帯、信頼の各側面に、相関が高い。このことから、趣味は青年の自己表現の一つであり、アイデンティティの重要な部分であるといえる。

③時間的展望と充実感

次に、時間的な内容を含みこんだ「将来」の領域についてみると、青年期の充実感と強い関連がある。

各項目と充実感気分との相関係数を見ると、項目16)「夢や希望に向かって現在努力している」と項目15)「自分の将来に夢や希望が持てない」が、項目1)「今の学校に満足している」に引き続いて、他の現実生活についての項目より高い値を示す項目群であることがわかる。

このことは、青年たちが旧世代に比較して、若さを失ったといわれる現代においても、成人期への過渡期である青年期のもつ可能性と未熟さの両義性という心理学的本質から、青年の全生活空間は未来の自分を包含したものであり、将来なるであろう自分をふくみこんだアイデンティティに青年は充実感を感じている証拠を提供している。

また、項目15) 16) と信頼との相関の高いことは、Eriksonの漸成発達理論図の中で、乳児期の発達主題である信頼対不信が、青年期において時間的展望対拡散という形で現れると理論化されていることへの説得的資料である。

④人間関係と充実感

最後に、青年期における人間関係と充実感の関係について検討しよう。

Eriksonの漸成発達理論図の中で、人間関係を深めることが主題化された親密性対孤立は、青年期に続く初期成人期の主題である。漸成発達理論からは、青年期のアイデンティティ統合の主題が、健全に解決された青年は、初期成人期の主題である親密さの主題へと進むと考えられる。

このことは、本研究の結果では、項目21)の親友の存在と充実感尺度との相関に示されていると考えられる。すなわち、親友の存在は、親密さを測定している連帯と最も高い相関を示し、それに続く数値で信頼、充実感気分とに相関している。つまり、親友の存在は、アイデンティティ統合の感覚にあまり強い関係はなく、親密性の統合の現われと考えられる。このことは、項目21)の異性の友人の存在にも同様の傾向がみられる。

これに対して、項目34)「現在複数の異性とつきあっている」と35)「交際している特定の異性がいる」では、肯定的反応をした群の自立・自信の得点が、否定的反応をした群の得点よりも有意に高かった。このことを考えると、複数の異性とつきあうこと、特定の恋人がいることは、上述の親友の存在、異性の友人の存在の場合と比較して、親密性の問題よりも、より、自己のアイデンティティの問題に影響が大きいことを示しているように考えることができる。つまり、この複数の異性とつきあうこと、特定の恋人がいることは、成熟した親密性の表現ではなく、むしろ、自分に恋人がいることを、自己のアイデンティティの支えにする、すなわち、「私には、私を好きだといってくれる人がいるのだから、私はしっかりした、よい存在なのだろう」と確信する材料にするための恋愛、すなわち、アイデンティティのための恋愛である傾向の強いことがわかる。

ま と め

本研究の結果、青年の現実生活の中での行動レベルでも、アイデンティティ統合の方向性をもつ行動と充実感に相関の高いことが見いだされた。また、青年にとって、将来の自己を含みこんなアイデンティティが重要であることが示された。

また、充実感尺度の有用性としても、さまざまな項目との相関パターンにおいて、基本的には同方向のパターンを示しても、相関をとる項目によって、下位尺度の相関のパターンは異なったものとなり、項目の測定している意味内容を読み取るのに有用な情報を提供できることが示された。

引 用 文 献

Erikson, E. H. 1959 Identity and the Life Cycle: Selected Papers. In *Psychological Issues*.

Vol. 1 International Universities Press. (自我同一性 小此木啓吾訳 1973 誠信書房)

加藤厚 1983 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究, 31, 292-302.

西平直喜 1979 青年期における発達の特徴と教育 太田堯他(編) 子どもの教育と発達 6 岩波書店 Pp. 1-56.

大野久 1984a 現代青年の充実感に関する一研究: 現代青年の心情モデルについての検討 教育心理学研究, 32, 100-109.

大野久 1984b 現代青年の充実感に関する研究(5): 充実感尺度とエリクソン心理社会的段階目録との関係 日本教育心理学会第26会総会発表論文集 478-479.

大野久 1987 現代青年の充実感と同一性地位との関係 日本教育心理学会第29会総会発表論文集 494-495.

Rosenthal, D. A., Gurney, R. M. & Moore, S. M. 1981 "From Trust to Intimacy: A New Inventory for Examining Erikson's Stage of Psychosocial Development", *Journal of Youth & Adolescence*, 4, 73-82.

注) なお、この研究で用いられた資料は、平成元年度保育特別研究「心理学」の演習における受講生との共同で実施された調査によって収集されたものである。また、この研究の一部を、1990年日本教育心理学会第32回総会において口頭発表した。

付表1 学生生活に関する調査項目

大学生活・講義

- 1) 今の学校に満足している
- 2) 大学の講義、演習などは概してつまらない
- 3) 大学での講義、演習などは自分のためになると思う
- 4) 大学を休むことが多い
- 5) 大学の講義、演習などには積極的に参加している

クラブ・サークル・ボランティア

- 6) 私はクラブやサークル（ボランティア活動も含む以下同じ）に参加している
（以下の7）～12）の質問には、6）の質問で5、4につけた人だけ答えて下さい）
- 7) 私は目的をもって活動している
- 8) 自分から進んでクラブ、サークル活動をしようと思った
- 9) クラブ、サークル活動に熱中できない
- 10) 私は自分のクラブ、サークル活動が好きだ
- 11) クラブ、サークル活動にやりがいを感じない
- 12) クラブ、サークル活動の中で自分自身が生かされている
（以下の13）～14）の質問には、6）の質問で2、1につけた人だけ答えて下さい）
- 13) クラブ、サークル、ボランティアのほかに熱中できるものがある
- 14) クラブ、サークル、ボランティアは嫌いだ

将 来

- 15) 自分の将来に夢や希望をもてない
- 16) 夢や希望に向かって現在努力している
- 17) 将来の夢や希望について挫折感を感じたことがある
- 18) 具体的にこれからの就職先や進路を考えている

友人関係

- 19) 私は友人が多いほうだ
- 20) 私は人と浅く広くつき合うほうだ
- 21) 悩みが打ち明けられる親友がいる
- 22) 異性の友人がいる
- 23) 私の交友関係は年齢層が広いほうだ

家 族

- 24) 私は母親が好きだ
- 25) 私の親は口うるさい
- 26) 私の家では家庭内での会話がが多い
- 27) 私は父親が嫌いだ
- 28) 私の家は比較的裕福だ
- 29) 私は親を尊敬している

恋 愛

- 30) 現在私は幸福だと思う
- 31) 私には好きな人（片思いも含む）がいる
（以下の32）～35）の質問には、31）の質問で5、4につけた人だけ答えて下さい）
- 32) 私の好きな人によく会う機会がある

- 33) 私の好きな人にあっていると楽しい
- 34) 現在複数の異性とつきあっている
- 35) 交際している特定の異性がいる
(以下の36)～39)の質問には、35)の質問で5、4につけた人だけ答えて下さい)
- 36) 現在比較的長く交際している異性がいる
- 37) 現在交際している異性を信頼できない
- 38) 交際中の異性に満足している
- 39) その異性との交際に何か障害(三角関係、遠距離など)がある

アルバイト

- 40) 私はよくアルバイトをしている
(以下の41)～43)質問には40)の質問で5、4につけた人だけ答えて下さい)
- 41) アルバイトは楽しい
- 42) 以下の項目はアルバイトの目的としてどの程度当てはまりますか
 - a 旅 行
 - b 貯 金
 - c 趣 味
 - d 生 活 費
 - e 交 際 費
 - f 娛 楽
 - g 社 会 見 学
- 43) 平均して週に何日くらいアルバイトをしますか
1日 2日 3日 4日 5日以上
(以下の44)～45)質問には40)の質問で2、1につけた人だと答えて下さい)
- 44) アルバイトをしたいと思う
- 45) アルバイトをしていない理由として
 - a 時間がない
 - b アルバイトはイメージが悪い
 - c 自分にあったアルバイトが見つからない
 - d めんどうだ
 - e アルバイト以外にしたいことがある

趣 味

- 46) 私には趣味がない
- 47) 履歴書の趣味の欄に自信をもって書けるものがある
- 48) 趣味に打ち込んでいるときが一番幸せだ
- 49) 趣味は時間を作ってもやりたいものだ

その他・生活全般

- 50) 特定の宗教を信仰している
- 51) 毎日の生活の中で寂しいと感じたことがある
- 52) 私の健康状態はとても良い
- 53) 自分の自由になる時間がある

付表2 充実感尺度の項目（大野 1984 a から作表）

項目番号	項	目
充実感気分－退屈・空虚感		
1	毎日、毎日変化のない単調な日々でつまらない（R）	
5	生活に充実感で満ちた楽しさがある	
9	私は生きがいのある生活をしている	
13	毎日の生活にはりがある	
17	毎日の生活に退屈している（R）	
自立・自信－甘え・自信のなさ		
2	私は精神的に自立していると思う	
6	私は主体的に生きていると思う	
10	私は独立心が強いと思う	
14	いざとなるとどうしても人をたよってしまう（R）	
18	自分の信念にもとづいて生きている	
連帯－孤立		
3	だれも私を相手にしてくれないような気がする（R）	
7	私ひとりがとり残されているようで寂しい（R）	
11	自分がなさけなくいやになる（R）	
15	私をわかってくれる人がいないと思う（R）	
19	自分の理想とはかけ離れた今の生き方に焦躁感を感じる（R）	
信頼・（時間的展望）－不信・（時間的展望の拡散）		
4	自分の責任をはたすことに喜びを感じる	
8	生まれてきてよかったと思う	
12	毎日の生活の中でものをやりとげる喜びがある	
16	私には毎日の生活の中でなにかへの使命感がある	
20	私は価値のある生活をしていると思う	

（注1）（R）は逆転項目を示す

（注2）評定は、「今の自分に非常にあてはまる」（5点）、「今の自分にややあてはまる」（4点）、「どちらともいえない」（3点）、「今の自分にあまりあてはまらない」（2点）、「今の自分に全くあてはまらない」（1点）の5段階評定である。

表1 「大学生活・講義」、「クラブ」の充実感尺度との相関係数

「大学生活・講義」	1)	2)	3)	4)	5)	「クラブ」	6)
充 実 感 気 分	.52***	-.10	.18**	-.11	.14*		.21***
自 立 ・ 自 信	.25***	.03	.00	.10	.01		.02
連 帯	.20**	-.03	.11	-.13*	.09		.03
信 頼	.34***	-.09	.14*	-.04	.17**		.14*

***:p<.001 ** :p<.01 * :p<.05

表2 各項目を肯定した群と否定した群との充実感尺度得点の比較

項目7)「私は目的を持って行動している」					
		肯定群(N=107)		否定群(N=21)	
		MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		16.70	3.81	13.81	3.74 ***
自立・自信		15.80	3.41	15.81	4.26
連 帯		16.64	3.58	16.57	3.86
信 頼		17.61	2.96	16.29	3.16
		***:p<.001		** :p<.01	
				*:p<.05	
項目10)「私は自分のクラブ・サークル活動が好きだ」					
		肯定群(N=124)		否定群(N=17)	
		MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		16.45	3.74	14.41	3.66 *
自立・自信		15.78	3.49	15.76	3.44
連 帯		16.60	3.57	16.24	3.42
信 頼		17.42	3.07	16.29	2.65
		***:p<.001		** :p<.01	
				*:p<.05	
項目12)「クラブ・サークル活動の中で自分自身が生かされてるいる」					
		肯定群(N=64)		否定群(N=44)	
		MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		17.67	3.95	13.52	3.58 ***
自立・自信		16.83	3.32	14.86	3.59 **
連 帯		17.59	3.65	15.43	3.90 **
信 頼		18.09	3.12	16.00	2.90 ***
		***:p<.001		** :p<.01	
				*:p<.05	

項目9)「クラブ・サークル活動に熱中できない」					
		肯定群(N=30)		否定群(N=108)	
		MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		14.47	3.38	16.68	3.89 ***
自立・自信		15.87	3.12	15.91	3.49
連 帯		16.20	3.70	16.93	3.47
信 頼		17.03	2.85	17.31	3.20
		***:p<.001		** :p<.01	
				*:p<.05	
項目11)「クラブ・サークル活動にやりがいを感じない」					
		肯定群(N=28)		否定群(N=108)	
		MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		13.89	3.53	16.69	3.82 ***
自立・自信		15.54	3.10	16.02	3.39
連 帯		16.00	3.65	16.72	3.67
信 頼		16.46	2.61	17.51	3.11
		***:p<.001		** :p<.01	
				*:p<.05	

表3 クラブ・サークルに関する項目を肯定した群、否定した群とクラブ・サークルに参加していない群との比較の充実感尺度得点の比較

項目 7)「私は目的を持って行動している」					項目10)「私は自分のクラブ・サークル活動が好きだ」				
	否定群(N=21)		不参加群(N=66)			否定群(N=17)		不参加群(N=66)	
	MEAN	SD	MEAN	SD		MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分	13.81	3.74	14.30	3.95	充実感気分	14.41	3.66	14.30	3.95
自立・自信	15.81	4.26	15.58	3.48	自立・自信	15.76	3.44	15.58	3.48
連 帯	16.57	3.86	16.32	4.16	連 帯	16.24	3.42	16.32	4.16
信 頼	16.29	3.16	16.02	3.04	信 頼	16.29	2.65	16.02	3.40
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05					***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05				

表4 項目13)に関する肯定群、否定群の充実感得点の比較、および、肯定群とクラブ参加群との充実感得点の比較

表5 「友人関係」と充実感尺度との相関係数

「友人関係」	19)	20)	21)	22)	23)	「恋愛」	31)	「アルバイト」	40)
充実感気分	.26***	-.04	.14*	.11	.18**		.08		.00
自立・自信	.20**	.06	.07	.16*	.34***		.06		.11
連 帯	.27***	-.11	.32***	.26***	.13*		.10		-.08
信 頼	.20**	-.01	.25***	.15*	.23***		.09		-.03
***:p<.001 **:p<.01 *:p<.05									

表6 恋愛に関する項目に関する肯定群、否定群の充実感得点の比較

項目32)「私の好きな人によく会う機会がある」						項目33)「私の好きな人にあっていると楽しい」							
		肯定群 (N=83)		否定群 (N=45)				肯定群(N=138)		否定群 (N=4)			
		MEAN	SD	MEAN	SD			MEAN	SD	MEAN	SD		
充実感気分		16.63	3.96	13.93	3.47	***	充実感気分	15.68	3.95	14.75	3.56		
自立・自信		16.25	3.49	14.87	3.29	*	自立・自信	15.89	3.53	14.25	1.09		
連 帯		17.00	3.63	15.53	4.16	*	連 帯	16.92	3.74	13.25	1.48		
信 頼		17.42	3.10	16.07	2.70	*	信 頼	17.04	3.06	16.50	2.50		
		***:p<.001		** :p<.01		*:p<.05		***:p<.001		** :p<.01		*:p<.05	
項目34)「現在複数の異性とつきあっている」						項目35)「交際している特定の異性がい							
		肯定群 (N=15)		否定群(N=110)				肯定群 (N=48)		否定群 (N=86)			
		MEAN	SD	MEAN	SD			MEAN	SD	MEAN	SD		
充実感気分		17.27	4.80	15.51	3.68		充実感気分	15.85	3.61	15.40	3.99		
自立・自信		18.13	3.14	15.40	3.28	**	自立・自信	16.52	3.43	15.31	3.29	*	
連 帯		18.20	4.15	16.55	3.71		連 帯	17.38	3.59	16.19	3.86		
信 頼		18.40	3.74	16.73	2.96		信 頼	17.29	2.85	16.58	3.00		
		***:p<.001		** :p<.01		*:p<.05		***:p<.001		** :p<.01		*:p<.05	

表7 「アルバイト」の項目に関する肯定群と否定群の充実感得点の比較

項目41)「アルバイトは楽しい」					
	肯定群 (N=41)		否定群 (N=19)		
	MEAN	SD	MEAN	SD	
充実感気分	16.68	3.76	14.16	2.70	*
自立・自信	16.29	3.95	15.58	3.03	
連 帯	15.41	3.94	16.63	4.09	
信 頼	17.85	3.15	15.58	3.30	*
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05					

項目42)「アルバイトの目的 旅行」					
	肯定群 (N=46)		否定群 (N=42)		
	MEAN	SD	MEAN	SD	
充実感気分	15.11	3.47	15.71	4.37	
自立・自信	15.78	3.64	16.76	3.76	
連 帯	16.07	3.66	16.12	4.46	
信 頼	16.59	3.23	17.02	3.41	
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05					

項目42)「アルバイトの目的 貯金」					
	肯定群 (N=55)		否定群 (N=23)		
	MEAN	SD	MEAN	SD	
充実感気分	15.71	3.86	15.43	3.68	
自立・自信	15.91	4.02	16.74	3.52	
連 帯	16.11	3.90	16.30	4.96	
信 頼	16.93	3.25	16.52	3.26	
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05					

項目42)「アルバイトの目的 趣味」					
	肯定群 (N=58)		否定群 (N=19)		
	MEAN	SD	MEAN	SD	
充実感気分	15.71	3.98	15.37	3.72	
自立・自信	16.83	3.23	15.16	4.13	
連 帯	16.53	4.16	13.95	3.63	*
信 頼	17.41	3.59	15.58	2.89	
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05					

項目42)「アルバイトの目的 生活費」					項目42)「アルバイトの目的 交際費」						
		肯定群 (N=44)		否定群 (N=43)				肯定群 (N=58)		否定群 (N=23)	
		MEAN	SD	MEAN	SD			MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		15.89	4.15	14.91	3.68	充実感気分		15.21	3.89	16.39	4.08
自立・自信		16.89	3.42	16.14	4.00	自立・自信		16.19	3.75	16.17	4.11
連 帯		15.70	3.67	16.47	4.44	連 帯		16.10	3.88	16.43	3.89
信 頼		17.27	3.47	16.28	3.19	信 頼		17.07	2.91	17.22	3.79
***:p<.001 ** :p<.01 * :p<.05					***:p<.001 ** :p<.01 * :p<.05						
項目42)「アルバイトの目的 娯楽」					項目42)「アルバイトの目的 社会見学」						
		肯定群 (N=72)		否定群 (N=16)				肯定群 (N=18)		否定群 (N=68)	
		MEAN	SD	MEAN	SD			MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		15.19	3.72	17.63	3.77 *	充実感気分		15.83	3.75	15.29	3.98
自立・自信		16.36	3.55	16.31	4.21	自立・自信		17.67	3.42	15.96	3.87
連 帯		16.36	3.93	14.94	3.80	連 帯		15.44	3.13	16.34	4.26
信 頼		16.94	3.02	17.50	4.02	信 頼		17.06	3.17	16.51	3.35
***:p<.001 ** :p<.01 * :p<.05					***:p<.001 ** :p<.01 * :p<.05						
項目43)「アルバイトの日数」											
		週5,4日群(N=24)		週2,1日群(N=54)							
		MEAN	SD	MEAN	SD						
充実感気分		14.38	2.98	15.48	4.06						
自立・自信		16.00	3.46	16.50	3.40						
連 帯		15.13	4.41	16.56	3.93						
信 頼		15.54	3.15	17.43	3.12 *						
***:p<.001 ** :p<.01 * :p<.05											

表 8 アルバイトをしていない群の各項目に関する肯定群と否定群の充実感得点の比較

項目44) 「アルバイトをしたいと思う」					項目45) 「アルバイトをしない理由 時間がない」						
		肯定群 (N=86)		否定群 (N=13)				肯定群 (N=54)		否定群 (N=35)	
		MEAN	SD	MEAN	SD			MEAN	SD	MEAN	SD
充実感気分		15.30	4.38	16.15	4.00	充実感気分		16.13	4.32	14.63	4.55
自立・自信		15.17	3.30	16.15	3.16	自立・自信		15.74	3.57	14.46	2.56
連 帯		16.19	3.57	18.38	4.41	連 帯		16.22	3.52	16.83	4.38
信 頼		16.45	3.24	18.38	3.27	信 頼		17.09	3.33	16.20	3.50
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05					***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05						

表11 「その他・生活全般」と充実感尺度との相関係数

「その他・生活全般」	50)	51)	52)	53)
充 実 感 気 分	.02	-.24***	.24***	.11
自 立 ・ 自 信	-.01	-.21***	.02	.10
連 帯	-.03	-.39***	.21***	.15*
信 頼	.09	-.21***	.24***	.14*
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05				

表12 「将来」充実感尺度との相関係数

「将来」	15)	16)	17)	18)
充実感気分	-.40***	.49***	-.04	.29***
自立・自信	-.29***	.31***	-.18**	.23***
連 帯	-.42***	.24***	-.30***	.32***
信 頼	-.39***	.44***	-.02	.26***
***:p<.001 ** :p<.01 *:p<.05				